

# デジタル人材育成 in 邇摩高校

～令和4年（2022）年度 邇摩高校におけるデジタル人材育成事業の取り組み～

- 対象
  - ・ 情報科目選択者5名
- 支援企業
  - ・ チーム出雲オープンビジネス協議会
- 支援内容
  - ・ ITツールの理解ならびに利用方法のアドバイス
  - ・ 課題解決に向けた演習において各チームのメンターおよびアドバイザー
  - ・ FAQサイト（Slack、Trello等）を立ち上げ、コミュニケーションを図る
- 基本方針
  - ・ 問題意識を持ち、その課題をITで解決する手段の1つを学ぶ
  - ・ ITツール（Prott）を理解し、使える力を身につける
  - ・ チーム分けによる傾聴力・発言力・コミュニケーション力を高める
- 目指す人物像
  - ・ IT業界に限らず、他の産業においても課題の発見とそれをITツール等を利用して課題解決に向けた取り組みができるデジタル人材の育成

- ① 島根・地域の課題をメンバーそれぞれが考え、チーム内でそれぞれ発表しました。
- ② メンバーが発表した課題をチームで共有し、その中でもっとも課題だと考えるものを1つ選定しました。
- ③ プロトタイプを作成していくにあたり、Prottの使い方を学びました。
- ④ 各チームでそれぞれメンバーの役割、担当を決定し、プロトタイプの作成を始めました。作成過程において、アドバイザーへの質問またアドバイザーからの指摘をもらいながら進めました。

## ◎ 作成したプロトタイプ

- ・ しまねっこチーム 「アプリの力で島根の観光業を活性化しよう！！」
- ・ 非リア軍団チーム 「島根の特産品が調べられるアプリ」

- ⑤ 作成したプロトタイプは、3月に「成果発表会」を開催し、邇摩高校教員の方、チーム出雲オープンビジネス協議会の会員企業3社の経営者ならびにシステムエンジニアの前で発表しました。  
発表においては、作成したプロトタイプを実際に動かしながら工夫したところ、もう少し工夫したかったところ、盛り込みたかったところなど、自分自身たちでの自己評価に加え、傍聴者からの質問への回答、またアドバイスに耳を傾けていました。

## 【 この事業を通しての成果 】

- ・ 学生たち目線での課題について、最終的に解決できた際の成果をきちんと定義することができていました。
- ・ ITツールも使い方の習得も早く、問題なく使いこなせていました。
- ・ 各チーム積極的に意見を交わしながら、楽しく進めることが出来ました。
- ・ あくまでプロトタイプの作成までであったため、これ以降はシステム開発（プログラミング）の行程が必要になりますが、IT業界以外でも、様々なシチュエーションにおいて、IT・デジタルを利用できる方法を学びました。

## 【 総評 】

- ・ 今回の対象者5名に今後将来のことについて少し尋ねましたが、まだ自分自身の方向性が定まっていない生徒もあり、全員がIT業界へ進むかどうか不透明なところですが、どのような産業に進むにしても、今後必須となるであろうIT・デジタルの活用方法は学べたものと思います。  
邇摩高校が位置する島根県西部は、IT企業の数も少ないため、IT企業就職希望者であっても選択肢は狭まりますが、今回の経験を通して他産業であってもITの活用が出来ることを学んだことをこの島根で将来発揮してくれることを望みます。